



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.532

2016

10

父の姿を見て、日本語を学ぶことを決意

国土面積は6万5千km²で日本のおよそ6分の1、人口約2千万人。「インド洋の真珠」と形容される自然豊かな美しい国、スリランカ。「昔の王様の城跡が残っていたり、お寺があったり、日本との共通点も多い国です」と、母国の魅力を語るティリナ・ヌワンさんは昨年9月に来日し、YMCA学院日本語科に入学。初級コースに在籍しています。

日本に興味を持ったのは、ヌワンさんが幼い頃から日本で働き続けているお父さんの影響。日本での生活の様子を聞くうちに「自分も日本で仕事がしたい」と思うようになったとか。高校卒業後は、仕事をすることもありましたが、現地の日本語学校に通い、留学の準備をしました。現在は、お父さんと二人で暮らしています。



漢字は世界の中でも面白い文字

来日して1年とは思えないほど、日本語での質問にスラスラと答えてくれたヌワンさん。「スリランカの日本語学校では、母国語のシンハラ語で教わりました。熊本では最初の授業からすべて日本語。難しいけれど、その方が覚えやすいです。授業はゲームを交えたりして、楽しいですね。いつも楽しい」。

ヌワンさんに話を聞いたのはYMCA学院日本語科が年に1回開催する「日本語スピーチ大会」(4面に関連記事)の本選直後。100点満点の発表ができたか尋ねてみると、「100点?それはないです…90点くらいですね」とホッとした表情を見せてくれました。発表のテーマは「漢字と私」。同じ漢字でも読み方が違ったり、読み方が同じ漢字でも意味が異なったりと、ヌワンさんにとって未知

ずっと日本で暮らしたい。
だから頑張れます

の世界だったといいます。「漢字は面白い文字。今、120字くらい読めますが、書くことは本当に難しいですね。世界中で漢字が読める人は少ないでしょう? だからこそ、私は読める人になりたい」。

“学生がアルバイト”にびっくり

日本での生活で戸惑ったのは物価の違い。「スリランカは物価が安い。給料も安いですがね。日本は物が高いです」。日本の夏の暑さにも苦労しました。「スリランカは常に30℃前後。日本の真夏と同じような気温になることもあります。でも日本のほうが暑い、日焼けしますね」。冬の寒さも大変だったそうです。「でも、日本は町にゴミが落ちていなくてきれい。住みやすいと思います」。

また、スリランカでは勉強がおろそかになるという理由で、アルバイトをする学生はいないため、昼は勉強、夜はアルバイトをする日本の学生の生活に驚いたそうです。ヌワンさんも日本に来てアルバイトを始めました。「アルバイトも日本語の勉強に役立っています。今は、居酒屋で日本料理を作っています。揚げ出し豆腐や唐揚げ、野菜の天ぷら、うどん等を作ります。私の大好きなお寿司もある、いいお店です」とにっこり。



各国出身の友だちとの会話は日本語なので普段のおしゃべりも勉強に



特技は音楽。昨年の東部祭ではお父さんとインドの太鼓“タブラ”を演奏

被災地でボランティアも経験

4月の熊本地震はヌワンさんにとって、衝撃的なものでした。スリランカでは地震は滅多に起きないため、前震・本震はもちろん、余震が続いたことも怖かったそうです。

「1カ月ほど避難所で過ごしました。外国人は少なかったのですが、熊本の人が優しくしてくれて不便なことはありませんでした」と振り返ります。YMCAの被災地支援ボランティアにも参加し、阿蘇でがれき処理も経験。「もともとボランティアに参加することが好きで、先生から声を掛けられて被災地を訪れました。また機会があればいろいろなボランティアに参加してみたいです」と意欲的です。

地震を経験した今も、「日本で暮らし続けたい」という夢は変わらないというヌワンさん。卒業後は、自動車整備の学校への進学を目指しています。「来年3月には卒業ですが、今後も日本語の勉強は続きます」と真っ直ぐな目で語ってくれました。



Pickup

ながみね祭
鹿児島YMCAの
チアダンスチームも参加



みなみYMCA
サザンフェスタでカヌー体験

ユースが大活躍!
上通YMCAチャリティ市場



Information 行こう 見よう 深めよう

楽しみながらチャリティ 秋のYMCA祭

今年も、各YMCAでお祭りを開催します。どなたでも来場可能。益金は、熊本地震復興支援、東日本大震災復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等に用います。

楽しむ
×
チャリティ

むさしYMCAフェスタ2016 & むさしマルシェ

日 10月16日(日) 10:00~15:00 場 むさしYMCA(合志市幾久富) 内容 HIPHOP発表、食バザー、のみの市、ゲーム、体験プログラム(革工芸他)、お楽しみ抽選会、地域の方の出店(マルシェ合同)、作品展示など
問 TEL 096-248-6334

YMCA帯山まつり

日 10月23日(日) 11:00~14:00 場 東部YMCA(熊本市中央区帯山) 内容 水前寺幼稚園児による演奏、餅つき、食バザー(アジア料理など)、ミニのみの市、YMCA学院日本語科・建築科学生によるイベントなど
問 TEL 096-382-6661



水前寺幼稚園秋まつり

日 11月5日(土) 10:30~14:30(販売は11:30~) 場 水前寺幼稚園(熊本市中央区出水) 内容 子どもお神輿、食バザー、子ども向けゲーム、昔あそび、販売など
問 TEL 096-362-4141

前進祭

日 11月6日(日) 10:30~15:00 場 中央YMCA(熊本市中央区新町) 内容 一新幼稚園・一新太鼓、一新小学校吹奏楽部による演奏、HIP・HOP発表、ゲーム、食バザー、のみの市、お楽しみ抽選会など 問 TEL 096-353-6391



市民クリスマス2016 アンサンブルチャリティコンサート

クリスマス
×
チャリティ

クラリネット奏者の柳瀬洋さんらを招いて市民クリスマスコンサートを開催いたします。益金は熊本地震復興支援活動などのための支援金として、寄付します。

日 12月13日(火) 18:30開場 19:00開演
場 九州ルーテル学院大学チャペル
出演者 柳瀬洋さん・工藤美穂さん・柳瀬佐和子さん
費 大人 1,500円
学生以下 1,000円
全席自由
チケット取り扱い 熊本YMCA各施設
熊本YWCA(10月20日(木)~)
主催 市民クリスマス2016実行委員会
問 市民クリスマス2016事務局
熊本YMCA(Tel 096-353-6397)



熊本地震 災害救援ボランティア募集

訪問
×
支援

阿蘇YMCAは、阿蘇地域のボランティア活動の拠点として、全国のYMCAや関係団体とも協働し、倒壊した家屋のがれきの撤去や清掃などに取り組んでいます。地域の復興にはボランティアの協力が欠かせません。ぜひご協力をお願いします。

場 宿泊/阿蘇YMCA 活動/阿蘇周辺
費 1泊 宿泊費:3,630円
食費:夕食1,200円 朝食700円 昼食700円
内容 家屋の瓦礫の撤去・片づけ、農業ボランティア、観光支援、生活情報ボランティア、心のケアを目的としたイベントの企画運営、避難所・仮設住宅などへの支援活動など
保険 事前にボランティア保険(天災プラン)にご加入ください。
天災A:430円/天災B:650円
事前に加入できなかった方は、到着後に手続きをします。
日 7日前までに電話にて申込み 阿蘇YMCA TEL 0967-35-0124
詳細はWEBサイトをご覧ください。



共に幸せに生きていける社会をめざして インターナショナル・チャリティーラン

走る
×
チャリティ

YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会を目指し、全国で開催されています。1987年に国際賛助会(FCSC)主催で、初めてのチャリティーランを東京で開催して以来、これまでに6億7千万円以上のご寄付を皆さまからお寄せいただき、その全額をYMCAが全国で

展開する障がい児プログラムに充当させていただきました。現在、チャリティーランは全国18カ所にまで広がっており、熊本では今年第1回を開催することとなりました。種目は個人、ファミリー、グループの3コース。皆様のご参加をお待ちしています。

日 12月18日(日) 10:00~14:00(9:00受付開始、9:30~開会式)
場 熊本県農業公園カントリーパーク(合志市)
催 熊本YMCA
共催 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区、日本YMCA同盟/国際賛助会(FCSC)
全国協賛 三菱商事株式会社、富士通株式会社、ステートストリート・コーポレーション

全国後援 内閣府、厚生労働省、全国社会福祉協議会
熊本後援 YMCAフィランソロピー協会
主管 インターナショナル・チャリティーラン実行委員会
種目・参加費 個人 ¥3,000/ファミリー ¥3,000/グループ(宣言タイムレース) ¥10,000
申込 WEBページ限定受付
問 インターナショナル・チャリティーラン実行委員会事務局 熊本YMCA(熊本市中央区新町) TEL 096-353-6397



R | E | P | O | R | T

熊本地震の被災児も参加 第5回あそぼうキャンプ

8月18日(木)～20日(土)、「第5回あそぼうキャンプ」を行いました。阿蘇YMCAでは、2012年から毎年、東日本大震災の影響で熊本に避難してきた子どもや九州北部豪雨で被災した子どもたちの心のケアを目的にキャンプを実施。今回は、山口県宇部市を活動拠点とし、熊本地震で被災した子どもたちも加わりました。

カトリック宇部教会の協力のもとパイプオルガンコンサート、歓迎夕食会、花火大会に始まり、翌日はス

ポーツクライミングに挑戦。また、海水浴、キャンプファイヤーなど、様々なことにチャレンジしました。

震災の時の「ドキドキして怖かった」という感覚を、「ドキドキしてニコニコする」という感覚に置き換えることを目的に、精神科医の仁木啓介さんをはじめとする専門家の協力を得て実施。お互いの不安に寄り添い、励まし合うことの大切さを感じるキャンプとなりました。

阿蘇YMCA 山田真二



言葉を超えた交流 タイ・ユースワークキャンプ

8月31日(水)～9月10日(土)、国際ユースボランティアの3名と第20回タイ・ユースワークキャンプに行ってきました。

大雨の影響により、スケジュールの変更もありましたが、ホームステイ体験やワークを通して、タイの生活や文化を体験することができました。ホストファミリーをはじめ、多くの人とも交流。熊本YMCAが日本の里親とともに支援している山岳少数民族の子どもたちのための若竹寮も訪問しました。

参加したメンバーからは「タイ語も英語も全然できなかったが、村での滞在が長くなるにつれて、少しのタイ語とジェスチャーを使って現地の人々と意思疎通ができるようになったことが嬉しかった」「手遊びや折り紙を通して若竹寮やYMCAの子どもたちと交流することができた」などの感想が聞かれました。

最終日の空港には若竹寮の子どもたちも見送りに来てくれ、最後は涙を流して再会を約束しました。

むさしYMCA 土山真也



ワークで整備したコミュニティスペース

子どもたちと交流 東ティモールYMCAの職員が研修

アジアで一番新しい国で、多くの人が1日1ドル以下で生活しているという東ティモール。熊本YMCAでは青少年の育成のために現地YMCAのサッカープログラムなどの支援をしています。

東ティモールYMCAの職員、フランシスさんとウディスさんが、9月4日(日)～8日(木)、熊本YMCAを訪問し研修を受けました。サッカーやこどもえいごクラスなどに参加して子どもたちと交流。2人からは「熊本YMCAのプログラムの進め方は驚くものばかり。

東ティモールでのプログラムの立案の参考にしたいです」と感想が寄せられました。

また、託麻南小学校では5年生160名と「平和を考える授業」を実施。子どもたちが、アジアの国について学び、平和のために自分たちに何ができるかを考えました。肌の色、言葉、生活、いろいろな違いがあることを知り、尊重していくことがYMCAの目指す平和につながると思います。

ながみねファミリーYMCA 中村賢次郎



総主事の
タラント
Vol.30

私たち YMCA の願い

“ようやく”でしょうか、“もう”でしょうか、熊本地震から半年が過ぎようとしています。被災者の皆さんの生活は未だ厳しい状況です。熊本市内の避難所の閉鎖をはじめ、9月末をもって多くの避難所が役割を終えました。仮設住宅等へ移っていく中で、コミュニティを再構築していく支援がより重要となってきます。その活動を支えるのが、ボランティアです。私たちは、YMCAがこれまで、多くの被災地で活動し

てきた実績と、今回、避難所運営で築いた人間関係などを期待され、220棟ある益城町木山地区の仮設住宅における「地域支え合いセンター」の運営を任されました。孤立や孤独を生まないように、医療、福祉の専門家と連携し、住民による自治組織を再構築していくことが大きな使命です。被災者と支援者という一対一の関係性から、集団の中に助け合いの人間関係を築いていくことが求められます。

阪神淡路大地震、東日本大地震と、災害時には若者のボランティアの意識が高まってきました。しかし、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(2014年内閣府)によれば、13～29歳でボランティア活動に興味がある人は、米国61.1%、韓国56.9%で、日本は35.1%と低い値です。リオデジャネイロでも多くのボランティアによってオリンピック・パラリンピック

が運営され、若者や子どもたちは素晴らしい経験をしました。東京都の小中学校では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えて子どもたちのボランティア意識を育む取り組みが進められています。社会、年齢、国籍、文化の違いや障がいの有無にかかわらず、互いの人権を尊重し、他者を受容する力、そして課題を解決する力を養うように取り組んでいます。オリンピック・パラリンピックを人材育成、人生の糧となるレガシーとして子どもたちの心と体に刻む意義が語られています。

日本のYMCAは2020年に140年を迎えます。これまでYMCAを支えてきたボランティア活動は、様々な運動の原動力であり、私たちの宝です。子ども・家族・地域社会を育み、共に支え合う社会づくりを若者と共に目指していきたいものです。

t a l a n t o n

日本語スピーチ大会

9月3日(土)、東部YMCAでYMCA学院日本語科の留学生による「スピーチ大会」が開催されました。46名から選抜された8名が、日本語を学ぶ中で感じたこと、将来の夢、熊本地震での経験などを日本語で発表しました。会場には日本語科の学生や講師、地域の皆さんも集まり、感情豊かに語りかけるスピーチが終わるごとに大きな拍手や声援が起こりました。

審査の結果、呉佳織さん(台湾)が1位を獲得。スピーチ大会を体験し、日本語学習の新たなステップに踏み出したようです。

本選の中から2名の発表をご紹介します。



『天職の探し方』

ウ ジアズ
呉 佳織さん(台湾)

皆さんは“天職”という言葉をご存じでしょうか？ 天職はその人の天性に最も合った職業ですが、ある調査結果では、現在の仕事が自分の天職だと思っている人は、思っている人の倍になるそうです。多くの人が我慢しながら仕事をしていることとなります。しかし、仕事をはじめたきっかけは誰もが同じで、「興味があるから」だと思います。興味がなければやる気もないし、上手になる機会もありません。

多様化社会にいる私たちの選択肢は数え切れないほど多いので、逆に困る人もいます。一番良い天職の探し方は、自分の本当の気持ちに添うこと。社会的な価値観を混ぜず、幼い頃に感じたように好奇心を持ったことが天職なのではないかと思います。実は、私もまだ天職を見つけていません。でも、これから見つめることができるように頑張っていきたいと思います。



『日本人のあいさつ』

チャンド シザール
Chand Sisirさん(ネパール)

私は去年10月に来日しました。日本にはいろいろなルールがありますが、ネパールと日本で一番違うことは“あいさつ”だと思います。日本では“あいさつ”がとても大切です。来日した時、空港まで迎えに来てくれた守田先生が「こんにちは」と言っておじぎをしました。私はビックリして、“あいさつ”をしませんでした。私の態度に、守田先生もきっとビックリしたと思います。

ネパールでは日本のような“あいさつ”はしません。友だち同士なら握手、先生には言葉で。ネパールでは、自分の頭を下げることは良くないことなのでおじぎはしません。日本では、仕事場でも学校でもどこでも“あいさつ”。正直、面倒くさいなと思いましたが、日本では“あいさつ”ができないと仕事も見つかりませんし、友だちもできません。日本で生活していきたいので、私もきちんと“あいさつ”しています。

Snap

読者の皆さんから寄せられた
写真を紹介します。

「ながみねの河童たち」まみまみ
@ながみねファミリーYMCA
受験生のメンバーとの最後の練習日。
和真、がんばれ〜(ハハ)／



「益城町炊き出し」どんぐり
@益城町総合体育館

熊本地震発生後、益城町での炊き出し支援の様子。九州のワイズメン、東京のYMCAのボランティア、その他たくさんの方にご協力いただきました。



写真募集中

応募はこちら▶



YMCAの活動の様子や思い出を写した写真を募集します。
採用された方にはオリジナルノートをプレゼント!

わたしと聖句

テモテへの手紙 二 3章16節

聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。

最高のベストセラーと古典

私たちに変化をもたらす多くの要因の中で、読書ほど素晴らしいものはないと思います。フランスの哲学者ミシェル・モンテーニュも「読書ほど、安いと同時に、長い間楽しめるものはない」という言葉を残しています。

多くの専門家は、フランスのとれた読書のために、二種類の本を読むことを勧めています。一つはベストセラーで、時代の流れと精神、世間の関心事などが理解できます。もう

一つは古典で、時空を超えた人生の教訓や知恵を見出だせると言われています。

聖書は世界のベストセラーであり、最高の古典です。この聖書の素晴らしいことを悟ったある無名の信徒は次のように歌を歌いました。

「疲労するとき、聖書は私の床となり

暗いとき、聖書は私の光となった。

飢え乾いているとき、聖書は私のマナとなり、

恐れるとき、聖書は私の武器となった。

仕事をするとき、聖書は私の大工道具となり、

賛美するとき、聖書は私の楽器となった

…」

いかがでしょうか。この秋には聖書を読んでみませんか。聖書を読むことで、自分自身が成長する喜びを味わっていただきたいのです。

羊の群れキリスト教会
朴哲浩

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8

TEL 096-353-6397(代)

発行人／岡 成也 編集人／富森 靖博

定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2016年度基本聖句

コリントの信徒への手紙Ⅱ 13章11節

思いを一つにしなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神があなたがたと共にいてくださいます。